

男女共同参画社会をめざす

アゼリア

Azalea

1999.9.30

NO.21



特集 サラリーマンと介護



北区

R50

『アゼリア』は古紙配合率50%の再生紙を使用しています。

サラリーマンと介護

男が介護を担う時



はたらいっている日本人の7割以上が、サラリーマンとして仕事をしています。つまり、組織労働者であつて、きゆうくつな思いをしながらはたらいっています。上司やまわりに気兼ねして、言いたいことも言えず、やりたいこともやれない稼業です。サラリーマンはなぜ、自分の欲望や意思をおさえてまではたらくのかといえは、むろん、「家族」のためです。私もそうでした。

いま私は、サラリーマンではありません。介護プロフェッショナルと称して、原稿を書いたり企画書を作つては売り込みに行つて、なんとか生計を立てています。言いたいことも言えず、やりたいこともやれないのは、サラリーマンの時とほぼ同じです。生計の不安と生活の不安定を考へれば、サラリーマン時代の25年間の方がはるかにハッピーでした。しかし、私にはもう会社員という安全圏の中の時間はありません。

単身鹿児島へ

およそ4年前、父の介護を理由に会社を退職したとき、廻りの反応の中に「あなたは恵まれているから、

そんなことができるのだ」というものが少なからずあつて驚きました。「ええっ？ 清水の舞台から飛び降りる覚悟でやろうとしていることを、恵まれているからできるなんて、身勝手だ！」と。

ここで、両親の世話をしないとやがて後悔する。今、それをやれる環境にあるのは五男坊の私だ。人が溺れようとしている。助けたかったら水に飛び込むほかない、と後先も考えず介護の現場に飛び込んだのです。結果、2年6ヵ月後、寝たきりの父は自宅でみんなが見守る中、ほんとうに眠るようにして息を引き取りました。88歳。家族全員が安堵し、私は「男の介護」から解放されたのです。

恵まれているといえは、やるべきだと思つたことをやる無鉄砲さ、頭の単純さには恵まれているのかもしれない。男とは、サラリーマンとはこうしなければいけない、という思い込みからも自由であろうと努めてきました。それでも辞表提出の際、「介護なんかで会社を辞めるのは、おかしいと思われるかもしれませんが」というエクスキューズを入れたくらいですから、私もかつては男社会の、

(株) オフィス・タケナガ代表

たけなが 竹永 睦男



プロフィール

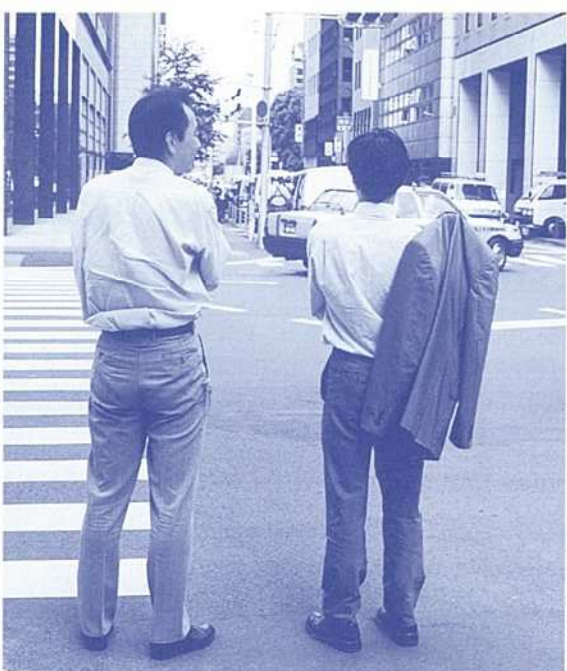
獨協大学外国語学部卒業後、1971年(株)資生堂宣伝部制作室入社。化粧品宣伝制作、商品企画、コピーライター・デザインを担当。1996年両親介護のため同社を退社し、郷里で在宅介護を実践。1997年(株)オフィス・タケナガ設立。現在は介護プロフェッショナルとして医療・福祉・介護のコミュニケーション課題を提案している。著書「みんなの介護②『男の介護』48歳サラリーマンの選択」/法研

ゴリゴリの会社人間だったので。

48歳で退職し、家族を東京に残し、単身実家のある鹿児島にUターン。そこで父と母との生活を始めたのですが、その介護生活でいちばん苦しかったことは、私には「仕事」がなかったことでした。「会社を辞めた人」イコール「仕事をしない人」と世間から扱われたのです。それは、いまでも続いています。鹿児島で介護をしているはずの男が東京に出てきていると、なぜだと思議がられる。日本はそれほどまでにサラリーマン社会、会社員社会なのです。会社員でなければ人間にあらず。

仕事は「免罪符」?

父の終末期を看ているわけですから、兄弟で話し合つたり、協議しなければならぬことが数多くありました。その都度兄弟が集まつたり、集まらなかつたりしたので、結論がでなかつたり解決策が見つからなかつたりするたびに、兄たちはこう言い残して介護の現場を去つていきました。「悪いけど、俺は、明日仕事があるんだ」とか、「ちよつと、はずせない会議が」とか、「出張が」とか。私は、このとき、家にひとり取り残されて家族を守り抜いてきた主婦の呻きを聞く思いがしました。最近の若い世代では変わつてきたように見受けられますが、男たちが育児に参加しなかつたり、家庭を顧



みなかつたり、子どもの教育に関わらなくてもよかつたのは、自分には大切な仕事があつて、仕事には事情があつて、自己都合は優先できない、という理由からでした。

介護がおもに女性労働とみなされ、女性に押し付けられてきた背景も同じです。なにしろサラリーマンは、家族のためにはたらいっている。介護は家族の問題だが、とてもそこまでは手がまわらない。お願いだから、介護は家庭の中で対処してほしい。第一、サラリーマンがはたらかなければ、介護どころではなくなるよ、と。

もし、これを認めてしまえば、就業人口の7割がサラリーマンなので、すから、はたらく日本人のほとんどは、介護ができないことになつてしまします。もしこれを認めてしまえば、会社ではたらくことだけが仕事で、これまで女性たちが担つてきた介護は仕事や労働ではないことになつてしまします。仕事、仕事……。仕事が育児や介護を担わなくてよい「免罪符」にはならないことを、私たちはどうしたら自覚できるのでしょか。

もうひとつの世界

私は、兄嫁たちにはなく、4人の兄たちに「ひと月とは言わない、せめて1週間でいいから両親と寝起きを共にしてみる」という注文を出

しました。父亡き後、独り暮らしを始めている85歳の母と兄たちとの短期生活が、今こうして私の実家では始められています。

食事、洗濯、掃除。シャドウワークの楽しさと大変さ。ひとことひとこと、ひとつひとつ違う母との会話、感情、生活リズム。老人のかたくなさとゆとりのないなごとの付き合い方。看護婦さんやヘルパーさんとの対応。これらは全て、サラリーマンとしての技術、指示や命令が許されない世界です。兄たちは、60歳を過ぎて初めて、「もうひとつの世界」があることの学習をはじめるところです。

その生活世界の中でも、介護は、またちよつと趣きが異なります。育児と似ていますが、育児と違って、介護は終末に向かう人間のケアです。介護を担つてみると、育児より数倍の労力と技術を必要とする重労働だとわかりました。また、労働の達成感を得られません。努力の限りをつくしても、それは人生に終止符を打つための努力です。育児と違って関与者が多く、その調整に疲れきつてしまします。なかでも愛情と介護を切り離して考える冷静さと、合理性が求められます。どんな方法が正しく、どんな対応が誤り、という価値判断は通用しません。あくまで個人に向き合い、その個別事情に即して、その時々「最適解」を誠実に積み上げていくしか方法のない領域です。こうしてみると、成果主義のサラ



リーマンのはたらき方や技術と、成果を求めることをしない介護現場のはたらき方や技術とは、全く異なる原理であることに愕然とします。愕然としますが、私たちもまた、やがては介護する人になり介護をされる人となり、サラリーマンとは違うもうひとつの原理の世界に生きていくことになります。私にとって介護は、生き方の練習問題だった気がしています。介護を担つて一度「主婦になつてみる」ことも、この時節、サラリーマンには必要なことではないでしょうか。

男女共同

NOW 参画



「男の料理教室」訪問記

「男の料理教室」は、「男女の別なく誰でも気楽に訪れてくれる場所でありたい」という女性センターの願いをこめて企画した講座のひとつです。その願い通り30～80代（60代が大半）と幅広く応募があり、まずは企画大成功でした。訪問した最終日はそれぞれの家族を招待してのお料理づくりです。盛り上がっている中、お話をうかがいました。

神門さんご夫妻
「ずつと何もしていないかったけれど、妻が床に臥せた時、僕が早く起きて食事ぐらいいは、と一念発起しました」
「家では私がやってしまいますが、少しでも手伝おうという気持ちが嬉しいです」



奥山さんご夫妻
「単身赴任していたので料理は慣れていますが、ここでいろいろな年代の人と話ができるので喜んでます」
「逆に沖縄料理を教わりました。カレーはお父さんのカレーと名付けていて、土曜日につくって日曜日は1日食べています」



松本さんご夫妻
「毎日がつもつと楽しくなればいいなあと思って申し込んだんです。これまでも時には簡単なものをつくらせてもらっていました」
「なかなかのものですよ。茶碗洗いややってくれます。ここで習った料理は新しいレパートリーとして娘にも電話で教え、喜ばれています」



長岡さん親子
「妻がカラオケで『別れの歌』を歌うのを聴いて、これは危ないなあと思い、男も料理くらいできなくちゃ、と応募しました」
「父は家では全く何もなかったので、一緒に受講できて良かったです。ぼくは料理は好きだよ」



瀬野さん
「朝、妻の昼食用におにぎりを毎日つくっていましたが、おかずのテクニクはありませんでした。今回いろいろ覚えたので、妻に感動の涙を流させたい。まずはレパートリーを増やしていきたいと思っています」

招待された家族の方たちもかわり、食材を切る人、揚げる人のさまざまな手が調理台の上を行き交い、熱気にあふれた室内はまさに男女共同作業です。料理の味もひとしおでした。

女性が「家庭と仕事」を両立させていくことは現代の課題のひとつですが、今回の教室の様子を見る限りでは、家庭か仕事かの選択に悩む女性は少なくなるだろうと感じました。

レシポ. ディップ いろいろ

かつお節のディップ

材料
・マヨネーズ 1/2カップ
・削りかつお 10g
・醤油 大さじ1
・七味とうがらし 小さじ1/2
・きゅうり、にんじん、セロリなど 適宜

作り方
1. 材料を混ぜ合わせる。
2. 野菜はそれぞれスティック状など食べやすいように切り、添える。

クリームチーズのバジル(しそ)風味

材料(4人分)
・クリームチーズ 50g
・生クリーム 大さじ1
・オリーブオイル 大さじ1
・バジル(しその葉) 生みじん5~6枚
・塩、こしょう 少々

作り方
材料を混ぜ合わせ、クラッカーや薄切りパンに添える。

なすのイタリア風

材料(4人分)
・なす 2個
・たまねぎ 1/4個
・オリーブ油 大さじ1
・オリーブ(黒) 5個
・トマトケチャップ 小さじ1
・塩、こしょう 少々

作り方
1. たまねぎはみじん切りにして、オリーブ油でよく炒める。
2. なすは網の上で皮をよく焼き、水洗いしながら皮をむき、へたを取ってみじん切りにする。
3. 1、2を合わせ、トマトケチャップ、塩、こしょうで味をつけ、器にとってよく冷やし、クラッカーなどにのせる。

女性学講座

誌上講演会

「女性と暴力」より

かながわ・女のスペース“みずら”
代表 福原啓子氏をお迎えして



福原 啓子氏 (ふくはら けいこ: かながわ・女のスペース“みずら”代表)

7月16日に女性セミナーで、女性と暴力についての講座が開かれました。あまりおもてだつて語られずにきた分野ですが、誰もが知りたい分野。そんな講座だったと思います。

暴力とは何か

暴力とは、相手の人間的尊厳を侵害する強制力の行使のことです。

暴力を可能にするものとしては、力関係の不均衡、いわゆる強い者から弱い者へ、差別する者から差別される者へという不均衡があげられます。

また、暴力には偶然的なものや構造的なものがあります。偶然的な暴力とは、一時的な力関係の不均衡によるもので、仲直りの可能なものです。それに対して、構造的な暴力とは、個人の力ではどうにもならない社会的構造からきている構造的力関係の不均衡によるものです。特にここでは、後者が問題となってきます。

たとえば、女性は男性より最初から劣っていると思っている男性と女性、力を示すことで男の強さを表わそうとする男性と女性、大人と子ども、教師と生徒、白人と有色人種、健常者と障害者、先進国と発展途上国などが構造的暴力になりやすいのです。

(2)性暴力と性の商品化

レイプ(強かん罪)は、被害者が6ヵ月以内に警察に自己報告しなければなりません。警察の求めるものは証拠保全ですが、被害者の女性は一刻も早く忌まわしい記憶を消し去りたいと思い、そこにズレが生じています。性の商品化には、買売春や援助交際などがあります。

(3)セクシュアル・ハラスメント

セクハラには、対価型と環境型があります。対価型は、地位や権限などを悪用するもので、たとえば、雇用上の利益や人事権を持っている上司がセクハラと引き換えに対価を与えることで性的行為などを強要するような場合です。環境型は、たとえば、自分が不快になることを言われたりされたりして、職場に行きにくくされる場合をいいます。

現状と今後の課題

人権意識の確立と社会構造の変革が必要です。男性優位の社会、私たちが無意識にもっている「男は外、女は内」という感覚、男性中心の仕事、女性は補助的な仕事という性別役割意識を変えていくことが大切です。気づかない性別役割意識、たとえば、「入籍」「嫁」といった言葉や、健康保険証は一家に1通という制度も変えていく必要が大いにあるでしょう。

女性に対する暴力とは何か

(1)ドメスティック・バイオレンス

夫・恋人など親しい関係の男性から妻・恋人に対して繰り返し振られる暴力のことです。ここでいう暴力とは、殴る・蹴る以外にも、言葉の暴力、生活費を渡さないなどの経済的暴力、性的行為の強要などを含みます。

男女わかちあい介護

—あなたの大切な人が倒れた！ その時あなたは……—

どんなに大切な人の介護でも、1人で抱え込んでしまったら、心も体もつらくなるものです。男性も女性も、介護を1人で抱え込まないでお互いに支え合い、分かち合っていきたいものですね。この講座は実習を中心に介護のポイントを学びます。

今は身近なことではないけれど、将来を考えると不安、心配と感じている方、是非ご参加ください。

- ◇対象 北区在住、在勤の男女ペアまたは男性のみ
- ◇受講費 材料費1人1,500円(24日の昼食代を含む)
- ◇定員 30名(先着順)
- ◇申込方法 電話またはFAX
- ◇問い合わせ 女性センター(アゼリアプラネット)
〒114-0003 北区豊島1-14-12
☎(3913) 0161
FAX (3913) 0081

日程

回	月日	場所	内容
1	10月24日(日) 午前10時 ～午後3時	北区立特別養護 老人ホーム 上中里つつじ荘	実習「家庭介護の基礎知識」 ～移動、それは自立への第一歩～ 講師 (財)介護労働安定センター 看護婦 関口 紀美氏
2	10月30日(土) 午前10時 ～正午	女性センター	調理実習「手早く・おいしく・たのしく」 ～要介護者を抱える人のために～ 講師 料理研究家 渡辺 あきこ氏
3	11月6日(土) 午前10時 ～正午	女性センター	調理実習 「老人食の調理と食事介護」 講師 栄養士 土屋 陽子氏

※10月24日(日) 上中里つつじ荘の見学があります。
昼食は入所者と同じものをいただきます。

ちょっとお知らせ

今回から最終ページに区民からの声のページを設けました。ちょっといい話、情報をみんなに伝えたい、という方、ぜひ投稿してください。

「山下りん」を知っていますか？

「山下りん」という画家をご存知ですか。江戸時代の終わりに常陸国笠間藩の下級武士の娘として生まれたりんは、小さい頃から絵を描くのが大好きでした。父親はりんが7歳の時病死。時は明治維新直後で、兄は10歳、弟は3歳。残された母子の生活は困窮を極めました。

そんな中、りんは画業をめざし、15歳で単身東京へと家出をします。そして紆余曲折を経て、当時設立されたばかりの美術学校に優秀な成績で入学。西洋画と

出会い、才能を発揮するりん。その後ロシア正教布教師ニコライと出会い、キリスト教に入信したりんは宗教画に転じましたが、終生彼女の心を虜にしてやまなかったのは西洋画だったのでした。

彼女の作品(油絵2点)は笠間市の笠間日動美術館(☎0296-72-2160)に寄贈、展示されていて、10月いっぱい鑑賞できるそうです。明治の初期、直接イタリア人から絵の教えを受けたりんの日本人離れしたタッチには、本当に驚きます。笠間を訪れる機会があったら、ぜひ一度ご覧ください。

(滝野川7丁目在住 厚美 薫)

Azalea No. 21

刊行物登録番号
10-2-006
(10月号)

平成11年9月30日発行

企画・編集/アゼリア編集委員会

発行/東京都北区総務部

区民編集委員

男女共同参画室

草間浩子

〒114-8508

本田りえ

TEL 03-3908-9307

矢澤弘子

FAX 03-3908-1803

厚美薫

写 真/小田原淑子

協 力/株式会社 タクト・ワン

編集後記

集中豪雨による増水の恐ろしさをまさきと感じた今年の夏でしたが、入道雲から鱗雲に変わった空に、静かな秋の訪れを感じます。

スポーツ、食欲の秋とさまざまな秋の楽しみ方があります。私は今年こそ読書三昧の秋を楽しみたいと願っておりまして。そして、皆様の机上の本のお仲間にも、この「アゼリア」も入れていただけたら……。

(りえ)